清流ニューズ

発行所
〒192-0904
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jpn.org/

令和6年度総祈願

本年度教化誓願達成・学徒・教務員増加
日序上人御廿七回忌・日堯上人五ヶ年報恩ご奉公
寺内・境内整備ご有志奉納推進　工事無事着工
甲乙御講席主・願主増加・共連れ参詣促進・ご奉公体制再構築
お助行御法門聴聞励行・教養会内容充実・役中後継者養成

九月の御総講日

一日　十時　御修行日
※八日　九時半　バースデー総講
併　長寿特別総講
十三日　十時　高祖御命日
併　龍口法難口唱会
十七日　十時　開導御命日
廿五日　十時　門祖御命日
於　清流寺
十二日　十時　高祖御逮夜
十六日　十時　開導御逮夜
廿四日　十時　門祖御逮夜
三十日　十時　歓尊御命日
晨尊御逮夜
於　羽村別院

秋季彼岸会総回向

廿二日　十時　於　清流寺
廿四日　十時　於　羽村別院

会議

一日　御総講後　役中会議
廿二日　御彼岸後　参事会

今月のバースデー総講は、事情により、八日（日）に変更し、開始時間も九時半で、長寿特別総講が併修されることになっておりますのでご注意願います。

私たち仏立信者にとって、最も大事・基本となる行がお看経、いわゆる「口唱」です。

これを表すかのように、本山宥清寺の本堂両脇に掲げられている柱聯（書画を分けて書き、左右一対で掛ける板）の片方には「一向令唱此経本意（ひたむきに南無妙法蓮華経とお唱えする。これが法華経を説かれた仏さまのご本意である）」とあります。

御本尊に向かい、姿勢を正し、一遍でも多く、大きな声でハッキリとお唱えさせていただくその中に、仏さまの万能の力が備わる、と教えるのです。

なぜ末法の世は御題目口唱が大事なのでしょうか。

私たち末法の人間は「下根下機」と申して、仏在世の時代の仏道修行者と比べると、その人間のレベルが大きく下がっているからだ、といわれます。

新品のものでも、長年使っていけば段々痛みや劣化が生じてくるように、人間もまた、時代を経ると、どうしても質が下がるのはさけられません。

故に末法の衆生は「散乱麁動（心に落ち着きがなく、欲に乱されやすいこと）」また「三毒強盛の凡夫」と呼ばれるのです。

仏さまは、そんな凡夫でもわかりやすく覚えやすく、また、簡単でありながらも、大きな力が込められている、そんな慈悲に溢れた教え・修行を遺された。

御教歌

末法の　時にかなひて　当宗は
口で唱へる　宗旨なりけり

（開化要談　六　扇全十三巻一七二頁）

住職　長谷川　清泊

私たちはその尊いお慈悲をいただき、日夜御題目口唱に励まさせていただくのです。

その事を顕すように、開導聖人は御教歌御題に、「我らの位を名字即という、口唱の位也」とお示しです。

例えば、私たちが法華経6938文字の一つ一つを丸暗記する事は到底難しい話、せめて妙法蓮華経という「表題」くらいを覚えることが精一杯かもしれません。

しかしそれで問題ない。なぜなら、その表題、所謂「南無妙法蓮華経の御題目」に仏さまは全ての力を込められたからなのです。

お祖師さまは御妙判の中で

「日本の二字に六十六箇国の人畜財を摂尽して一つをも残さず（乃至）妙楽の云く、略挙経題玄収一部」

（四信五品抄　御妙判集一巻九二頁）

とお示し下されています。

御題目は、いわば日本という言葉の中に一都一道二府四三県全ての人や財産が収まっているのと同じ。何も心配する必要なく、疑う必要もない。しっかりお唱えさせていただけばよろしい、とお諭し下されるのです。

ですが、そのような尊いお慈悲をいただいても、それでもなお、自分考えを起こして素直にいただくことができず、積み重ねの修行が疎かになってしまいがちです。

①日に二〇分三〇分のお看経、その時間ですらも、毎日の生活の中、自分の欲を満足させる時間に充てたくて、「あとでやります」と後回しにしたり、その日一日お看経が全く上がらない。

②いざお看経を始めても、「今日のご飯は何にしよう」「あのテレビ・動画面白かったな」と雑念が起こって集中できない。

③ただただ「させていただこう」というお看経ではなく、「しょうがないからやろう、消化しよう」という惰性のお看経に陥る。

そんな状態が続くから、信心全体がいい加減になってきて意欲を失う。御利益も出ない。ご信心を苦痛としか見れなくなってしまう。

生まれがたい人間に生まれ、お出値いしがたいこのご信心で、罪障消滅・御利益感得させていただけるにもかかわらず、勿体ない事だぞ、とお戒め頂くのです。

御題目口唱の大事は決して後世の人が、作り上げた話ではなく、仏さまご自身がはっきりとお示し下されたものですから、教えに沿った、正しい信心修行の形でなければ、御利益感得は叶いません。

当宗は口唱宗だからこそ、日々積み重ねていく御題目口唱の実践、千遍よりは万遍とお唱えする精進の姿を御宝前は求められます。

それこそが、自分・家族・教区部内寺内全体、そして宗門の御祈願成就へと繋がり、それだけにとどまらず、先祖代々の供養も、罪障消滅も人助けも、その唱え重ねた御題目により、お力を頂戴できるのです。

お祖師さま御妙判

「一向に南無妙法蓮華経と称せしむるを、一念信解初随喜の気分とするなり。これ則ちこの経の本意なり」

（四信五品抄　御妙判集一巻九〇頁）

ひた向きな信心、ひたすらの御題目口唱こそが御利益感得のもとであり、その心をいつまでも持ち続けることが、仏さまの一番願われた信者のあるべき姿。くれぐれも忘れずにお励みなさいとのみ教えです。

また開導聖人御指南には、

「当宗の信心とは口唱也。口唱の行をつとむれば、必ず諸々の災難を払ひ、物事願はずして都合能く、無病息災、不思議の御利益を蒙る事、疑ひ更に有べからず。口唱はつとめて怠らざれば、佛説の真実なることを感得するもの也」

（一講一紙要談抄　扇全八巻一一八頁）

とお示し下されています。

「本当にこのご信心でいいのか」「恥ずかしい」などと小さくなる必要はありません。自信をもってお唱えさせていただけば、必ず御宝前は振り向いて下さいます。

み教えに叶ったお看経があげられるよう、改良精進を重ね、日々の信行に励ませていただくことが大事大切です。